

## 2024年度事業計画

### 1. 調査研究の推進

#### (1) D-Call Net の研究（継続）

新車搭載の車載機型（第1種）D-Call Net については、交通弱者（歩行者、自転車乗員）を対象とした次世代D-Call Net に関する調査研究、ドクターカーへの展開、救命救急に係わる関係者への広報啓発などを継続する。

使用過程車にも搭載可能な画像活用型（第2種）D-Call Net については、2023年度から開始したドクターヘリ・ドクターカー基地病院・消防本部における試験運用の成果を踏まえて、2025年度に全国における本運用の開始を目指す。

#### (2) HEM-Netシンポジウムの開催

これからの更なる救命率向上のために、ドクターヘリの「質的向上」に資する課題、また広く病院前救護・医療に関する課題を選びシンポジウムを開催してきたが、今年度は、これまでの地震とは様相の異なる能登半島地震におけるドクターヘリの活動状況を踏まえた議論を行い、諸課題を整理するとともに、今後発生が危惧されている南海トラフ巨大地震等におけるドクターヘリ活動の在り方を探りたい。

#### (3) ドクターヘリ夜間運航に関する調査・研究（継続）

ドクターヘリの夜間運航については、昨年度に引続き、HEM-Netも委員である日本航空医療学会内に設置された「夜間運航に関する委員会」を舞台に調査研究を行う。2月には運航各社に向けたアンケート調査を実施し、結果をまとめることとされており、その結果を注視する。

また、HEM-Netとしても夜間運航を実施している海外の実態調査を行ない、ドクターヘリ推進議員連盟総会の開催に合わせて、適宜情報提供を行う。

#### (4) ドクターヘリの連携・補完手段としてのドクターカー、ドローン及び空飛ぶクルマの調査研究（継続）

「ドクターヘリの連携・補完手段」として位置付けることができるドクターカー、ドローン、空飛ぶクルマについて、これらに関する調査研究を関係団体と連携して継続して行っていく。

それぞれの計画は以下のとおりである。

##### ① ドローンとドクターヘリのコラボレーション（継続）

災害時や予期しない緊急時に、ドローンがドクターヘリ運航や災害時の広域運用な

どに際し、様々な側面から支える可能性は大きい。その技術も、この数年で飛躍的に進化しAIによる自動操縦も視野に入ってきた。これらを踏まえて、より実践的な実証実験を計画し、災害・緊急時の安全な着陸場所の確保、医療資材・薬剤などの搬送をサポートする研究と実証実験を進めていくこととしたい。具体的には、愛知県豊明市・藤田医科大学、神奈川県伊勢原市・東海大学病院での研究計画を実施する予定。

② 「空飛ぶクルマ」による医師搬送システム（継続）

「空飛ぶクルマ」による医師搬送システム検討コンソーシアム（NEXTAA）」の活動へは、「医療効果WG」及び「運用体制WG」にそれぞれ委員を派遣している。同コンソーシアムの取組み目標は、「2025年の大阪万博における会場内での全域運用（デモフライト、実証運航、医療待機）」の実現であり、今後の活動状況を注視する。

24年3月には「空飛ぶクルマ」に関する航空法上の基準（機体の安全基準、操縦者の資格要件、整備に関わる要件、離着陸場の基準、飛行様式の基準、等）が公表されることとなっており、これを生かした議論を進める。

なお、24年のパリオリンピックにおいては「空飛ぶクルマ」が飛行するとの情報があり、この動向も見守ることとする。

③ 全国ドクターカー協議会」との連携によるドクターカーの調査研究（継続）

各都道府県における第8次医療計画の策定作業は令和5年度末をもって終了し、医療計画においてドクターカーがどのように位置付けられているかの実態が明らかとなる。この実態を基とした分析は重要な意味を持つところから、全国ドクターカー協議会と一緒に、分析したい。また、「令和4年度ドクターカーの運用事例等に関する調査研究事業報告書」によれば、ドクターカーの活動については人と金の手当てが不十分であることが判明したことから、その状況を政治の世界においても理解していただくため、議員連盟の設立に向かって全国ドクターカー協議会とともに対応していきたい。

(5) 病院前救護・医療に係る調査研究支援事業

ドクターヘリの効果的、効率的な運用に加え、ドクターヘリが利用できない場合等の病院前救護・医療に関する調査研究を進めるための支援事業を継続する。具体的には、ドクターヘリ基地病院等が行う病院前救護・医療に係る調査研究のための費用を上限100万円以内でHEM-Netが助成することとし、2024年度は4団体を目途に募集を行う。

## (6) 海外調査

2024年11月4日～6日まで米国（ソルトレークシティ）で行われる Air Medical Transport Conference（AMTC・航空医療輸送会議）に調査研究のために参加する予定。AMTCは航空医療に関わる全てを対象に、毎年米国で開催される学会であり、救急・救助ヘリコプター/航空機等の最先端技術や取り組みを学べる貴重なカンファレンスである。航空医療学会に所属するドクターヘリチームの医師も同行を予定している。この機会をドクターヘリの今後に活かしていきたい。

## 2. 情報の発信

### (1) HEM-Net プラザの発刊

「HEM-Net プラザ」は、今年度も引き続き、時局性の高いテーマを選んで問題提起ができるよう配慮しながら、年間4号を目途に発刊を続けていくこととしたい。

当面、第20号として、「ヘリコプターパイロット等の諸課題（仮題）」として昨今のヘリコプターパイロット不足に関する要因とその解決策について考えてみたい。第20号の発刊は、2024年4月頃を予定している。

### (2) 広報宣伝活動等の展開

関係団体、医療関係者等と連携・協力して、ドクターヘリの質的向上、D-Call Netの普及・啓蒙に関する「研究会」、「セミナー」、「講演会」などを主催・共催し、またはそれに積極的に参加するとともに、新聞・機関誌等に寄稿するほか、メディアの取材にも対応していきたい。

また、SNSを活用した広報活動も検討する。

## 3. ネットワークの拡大

### (1) 賛助会員・寄付者の拡大

引き続き、賛助会員・寄付者の拡大に努める。

### (2) 関係団体との連携の強化

ドクターヘリ推進議員連盟の総会に出席し、HEM-Netとしての活動内容や課題を報告することとし、課題等についてはその解決のための支援をいただくことにする。

日本航空医療学会の総会に出席し、幅広く情報を得るとともに必要に応じ発表し、また、HEM-Netが委員を務める当該学会の委員会に出席し、活動することとする。

日本航空医療学会、HEM-Net等を構成員とするドクターヘリ連絡調整協議会（会長：猪口貞樹）及びドクターヘリ連絡調整委員会（委員長：北村伸哉）にそれぞれ出席し、HEM-Netの活動を報告するとともに必要な調整を行うこととする。

ドクターカーについては、HEM-Netも会員である全国ドクターカー協議会に出席し、今

後のドクターカーの活用方策等についての議論等の情報を得るとともに HEM-Net としても協力することとする。

ドローンについては、HDC (日本ドローンコンソーシアム) のフォーラム等に出席し、情報を得るとともに、その活用を更に推進するために情報発信することとする。

空飛ぶクルマについては、NEXTAA (空飛ぶクルマによる医師搬送システム検討コンソーシアム) の総会、委員会、ワーキンググループ等に出席し、情報を得るとともに、情報発信することとする。